

# 富士吉田市 スポーツ推進計画

～ だれもが いつまでも  
スポーツに親しむことができるまち  
ふじよしだ ～





## 目次

第1章	はじめに	1
1	計画の趣旨	1
2	計画の位置づけ	2
3	計画の期間	2
第2章	スポーツを取り巻く現状	3
1	社会情勢の変化	3
2	国と県の動向	5
第3章	本市の現状と課題	6
1	本市の状況	6
2	スポーツに関するアンケート調査結果	8
3	競技団体へのヒアリング調査結果	21
4	本市のスポーツ推進における課題	22
第4章	富士吉田市スポーツ推進計画の基本的な考え方	24
1	計画の基本理念	24
2	計画の基本方針	25
3	計画の体系図	26
第5章	本市のスポーツ推進に向けた取り組み	27
	基本方針1 生涯スポーツの充実	27
1	幼児期のスポーツの推進	27
2	青少年のスポーツの推進	30
3	働く世代・子育て世代のスポーツの推進	33
4	高齢者のスポーツの推進	35
5	障がい者のスポーツの推進	37
	基本方針2 スポーツ環境の充実	39
1	スポーツ活動を支援する体制	39
2	特色あるスポーツ施策の推進	41
3	多様なスポーツ交流の推進	43
	基本方針3 スポーツ施設の充実	44
1	スポーツ施設の適切な維持管理と将来を見据えた施設整備	44
	施策の数値目標	46
資料1	山梨県新体力テスト・健康実態調査結果	47
資料2	富士吉田市スポーツ少年団の推移	48
資料3	富士吉田市スポーツ協会加盟団体一覧	48
資料4	富士吉田市内の体育施設一覧	49
資料5	富士吉田市スポーツ推進審議会委員 令和4・5年度名簿	50
資料6	富士吉田市スポーツ推進計画策定委員会開催状況	51

# 第1章 はじめに

## 1 計画の趣旨

近年のわが国のスポーツを巡る状況をみると、少子高齢化の進行等による、スポーツに参画する者の減少やそれを支える担い手の不足、学校部活動や地域におけるスポーツ・運動環境の維持の困難さなど様々な課題が顕在化してきています。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、様々なスポーツ活動が中止・延期等を余儀なくされ、スポーツに親しむ機会の喪失が危惧されているところです。

こうした社会環境の変化は、体を動かす機会の減少やストレスの増大、生活習慣病の増加など、深刻な社会問題を誘発しており、特に子どもたちの体力不足や運動能力の低下は、コミュニケーション不足や社会規範の低下とともに、将来的に社会性の低下の原因となりかねないと危惧されています。

一方、令和3年の夏には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世界中から集まったトップアスリートの活躍がメディア等を通じて伝えられ、スポーツの意義を再確認する契機となりました。

今後は、こういった社会情勢の変化やニーズに応え、一人ひとりが自らのライフステージに合わせたスポーツ活動を実践できるよう、生涯スポーツ施策を効果的・効率的に展開していくことが強く求められています。

このような中、富士吉田市では、スポーツに関する施策の計画的な推進のため、平成15年に「スポーツ振興計画」を、平成25年には「スポーツ推進計画」をそれぞれ策定し、これまで市民スポーツ大会やスポーツ教室・講習会の開催など、地域においてスポーツに親しむことができる機会の提供を図ってきました。また、富士山登山競走の開催をはじめ、各種スポーツ団体の催すスポーツ大会への共催・協力など、多くのスポーツイベントにも積極的に関わってきました。

今般、平成25年に策定した「スポーツ推進計画」が計画期間を終えることや、多様化する市民のニーズに対応するために、ここに新たな「スポーツ推進計画」を策定し、誰もが気軽に楽しめる生涯スポーツ社会の実現を図るための基本指針とします。

## 2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第 10 条第 1 項に基づく地方スポーツ推進計画として、国の第 3 期スポーツ基本計画（2022～2026 年度）を参酌するとともに、山梨県教育振興基本計画と連携した山梨県スポーツ推進計画（2019～2023 年度）の策定を受けて、新たに、「富士吉田市スポーツ推進計画」として策定するものです。

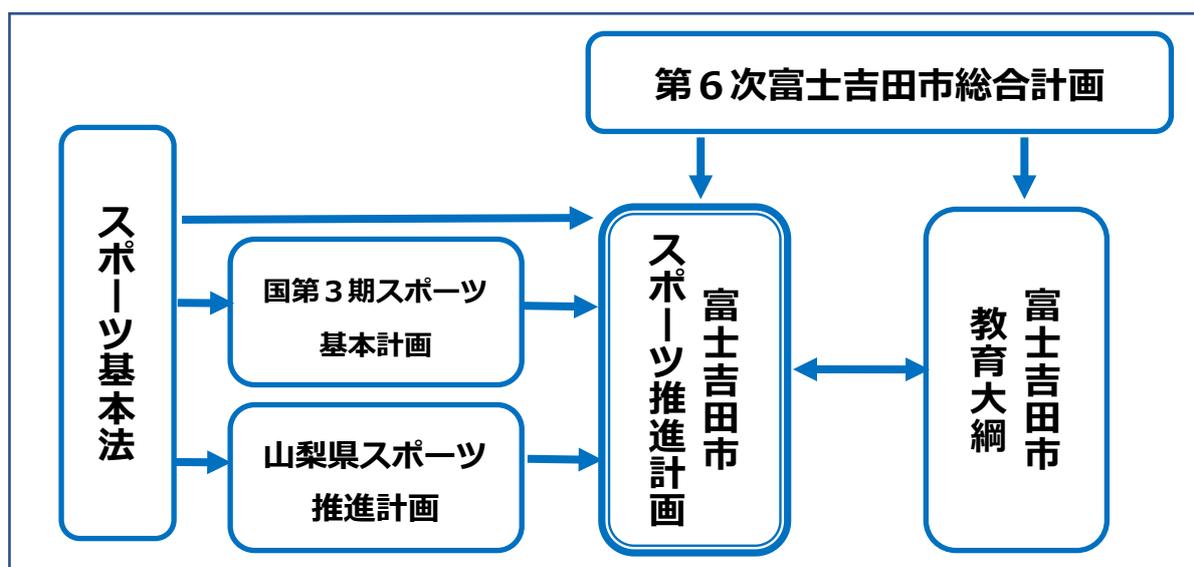
なお、上位計画である第 6 次富士吉田市総合計画との整合については、総合計画の中期見直し作業に反映するものとします。

### 【参考】

スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）

（地方スポーツ推進計画）

第 10 条 都道府県及び市町村の教育委員会は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものとする。



## 3 計画の期間

計画期間については、スポーツ基本法との整合性を保ち、総合的で包括的な計画とするという観点から、令和 5 年度から令和 14 年度までの 10 年間とします。

なお、計画期間中、社会情勢の変化等を勘案し必要に応じて適時見直しを行うこととします。

## 第2章 スポーツを取り巻く現状

### 1 社会情勢の変化

令和元年度に発生が確認された新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの社会に活動自粛や三密の回避、新しい生活様式の導入などを促し、特にスポーツ活動では中断や縮小を伴う大きな影響をもたらしました。そしてそれは、心身の健康づくりや人と人とのつながりの重要性をあらためて認識するきっかけともなりました。

このような社会情勢の変化を受けて、スポーツを推進する意義や目的は、従来から認識されてきた心身の健康づくりや人格形成、競技力向上という枠を超え、人々の暮らしをより豊かにするもの、地域コミュニティの形成や共生社会の実現、地域・経済の活性化に寄与するものとしても考えられるようになってきています。そのため、スポーツは個人と地域のどちらの視点においても、ますます欠かせない存在となっています。

また、世界共通の目標である国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」については、国内においても達成に向けた取り組みを積極的に実施しています。スポーツは、健康的な肉体や精神を育むことはもちろん、スポーツを通して社会生活で応用できるスキルを身に着けることが期待できるほか、ジェンダー平等に対する意識変革の助けになるなど、教育においても重要な役割を担っています。また、スポーツによる交流により地域が活性化し、経済成長や魅力的なまちづくりに繋がるといった側面もあります。

このように、様々な面から SDGs の達成に寄与する活動として考えられることから、スポーツ庁では、スポーツの力による SDGs の達成に向けた取り組みを推進しています。

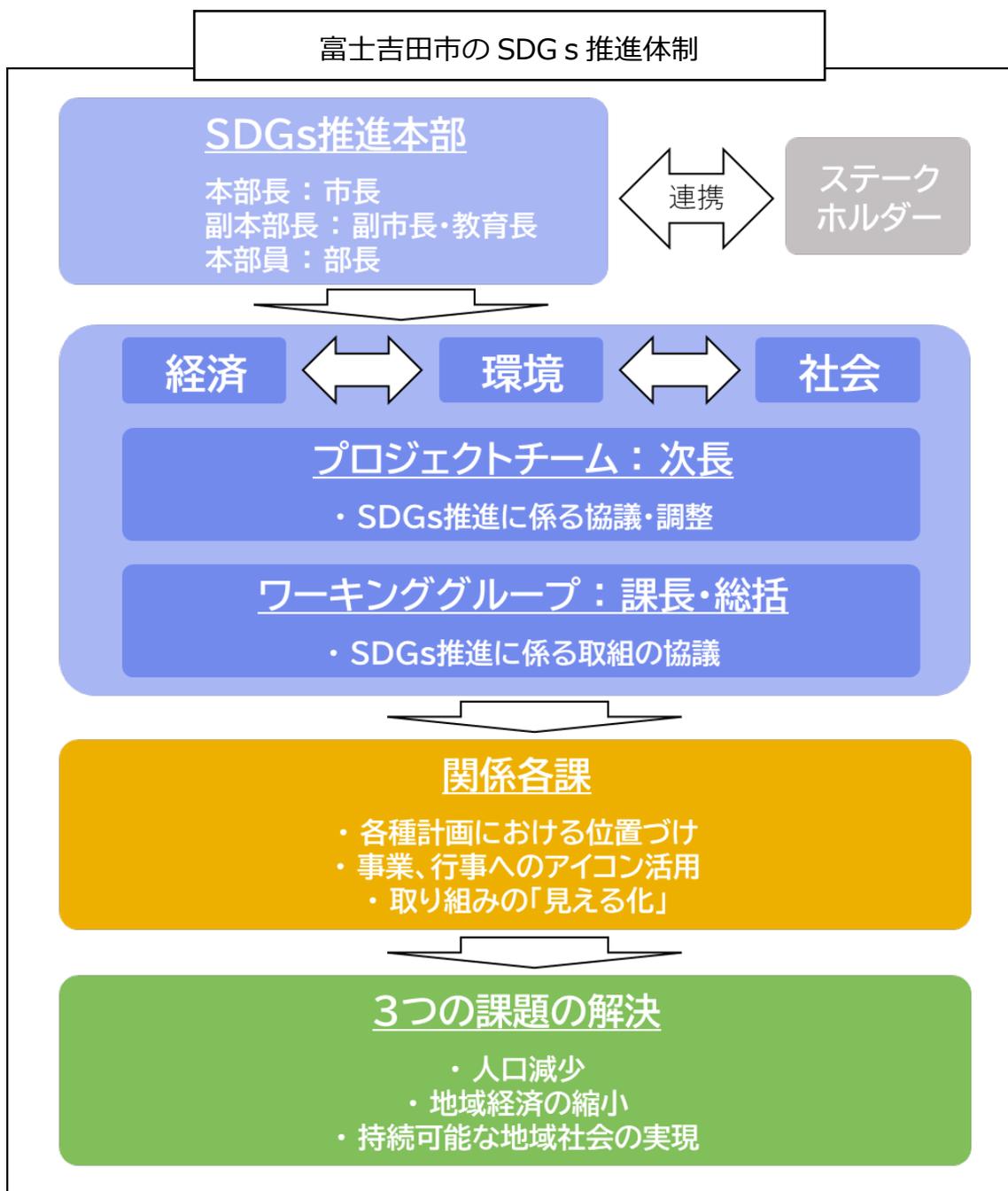


【SDGs（エス・ディ・ジーズ）＝持続可能な開発目標】

SDGs は、Sustainable（サステイナブル＝持続可能な）、Development（ディベロップメント＝開発）、Goals（ゴールズ＝目標の複数形）を合わせた略語であり、日本語訳として、「持続可能な開発目標」とされています。

このSDGsは、2015年9月の国連で採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年までの15年間で達成するために掲げた目標であり、環境、経済、社会それぞれの側面を統合的に向上させるため、17の目標と169のターゲットで構成されています。

この目標の達成に向け、政府だけでなく、自治体や企業、諸団体、町民にも役割があり、それぞれが協力・連携しあうことが求められています。



## 2 国と県の動向

### (1) 国の動向

国では、平成 23 年にスポーツの推進のための基本的な法律として「スポーツ基本法」を制定し、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利」であることを示しました。また、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成 24 年に「スポーツ基本計画」を制定、平成 27 年には新たにスポーツ庁を設置しました。さらに、平成 29 年に制定した「第 2 期スポーツ基本計画」では、「新たなスポーツ参画人口の拡大により、一億総スポーツ社会の実現に取り組む」ことが基本方針として掲げられ、「する」「みる」「ささえる」ことにより積極的にスポーツに参画してスポーツを楽しみ、喜びを得ることで、それぞれの人生を生き生きとしたものにする指針が示されました。

令和 4 年 3 月には「第 3 期スポーツ基本計画」を策定し、令和 8 年度までの 5 年間を計画期間として、東京オリンピック・パラリンピック競技大会（東京大会）のスポーツ・レガシーの発展に向けて、以下の三つの視点から特に重点的に取り組むべき施策を示しています。

#### 視点 1

社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に対応するというスポーツを「つくる／はぐくむ」という視点

#### 視点 2

さまざまな立場・背景・特性を有した人・組織が「あつまり」、「ともに」活動し、「つながり」を感じながらスポーツに取り組める社会の実現を目指すという視点

#### 視点 3

性別、年齢、障がいの有無、経済的事情、地域事情等にかかわらず、すべての人がスポーツにアクセスできるような社会の実現・機運の醸成を目指すという視点

### (2) 県の動向

山梨県では、健康で豊かな生活と地域社会の活性化を目指す「やまなしスポーツ」の創出を推進していくため、平成 26 年度から 5 年間の主要な施策や事業を示したやまなしスポーツ推進プログラムに取り組んできました。

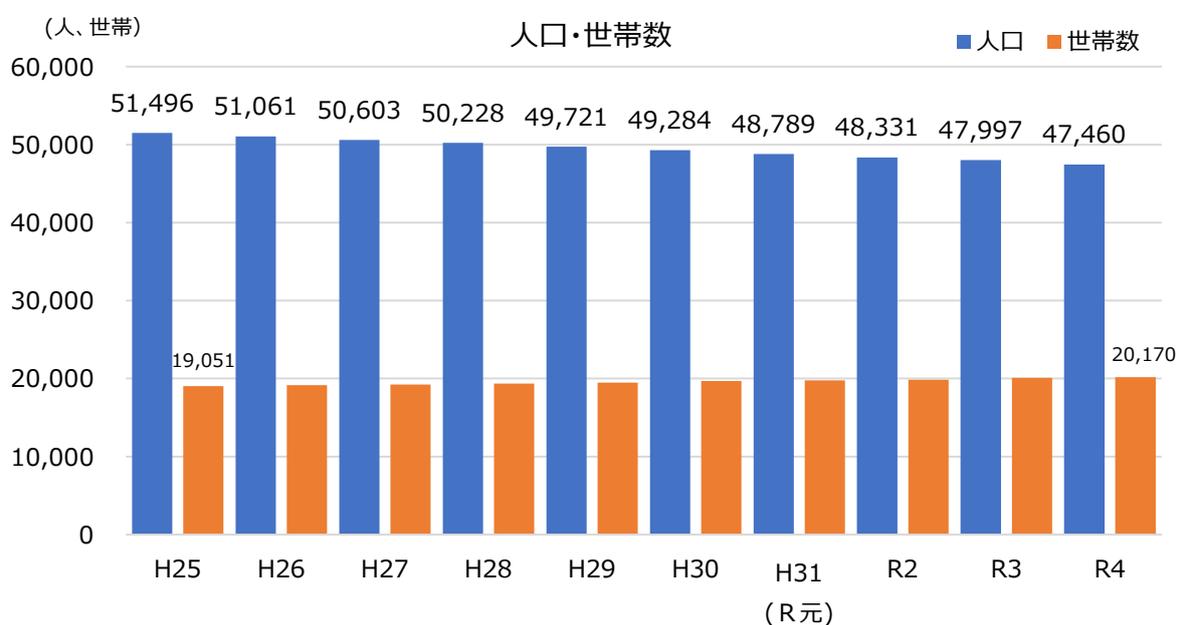
さらに、令和 3 年 12 月、国の第 2 期スポーツ基本計画を参酌して山梨県スポーツ推進計画を策定し、「県民誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる元気なやまなしをつくる」を基本理念として、県民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで、日本一となった健康寿命をさらに延ばすとともに、健康で豊かな生活と地域社会の活性化を目指しています。

## 第3章 本市の現状と課題

### 1 本市の状況

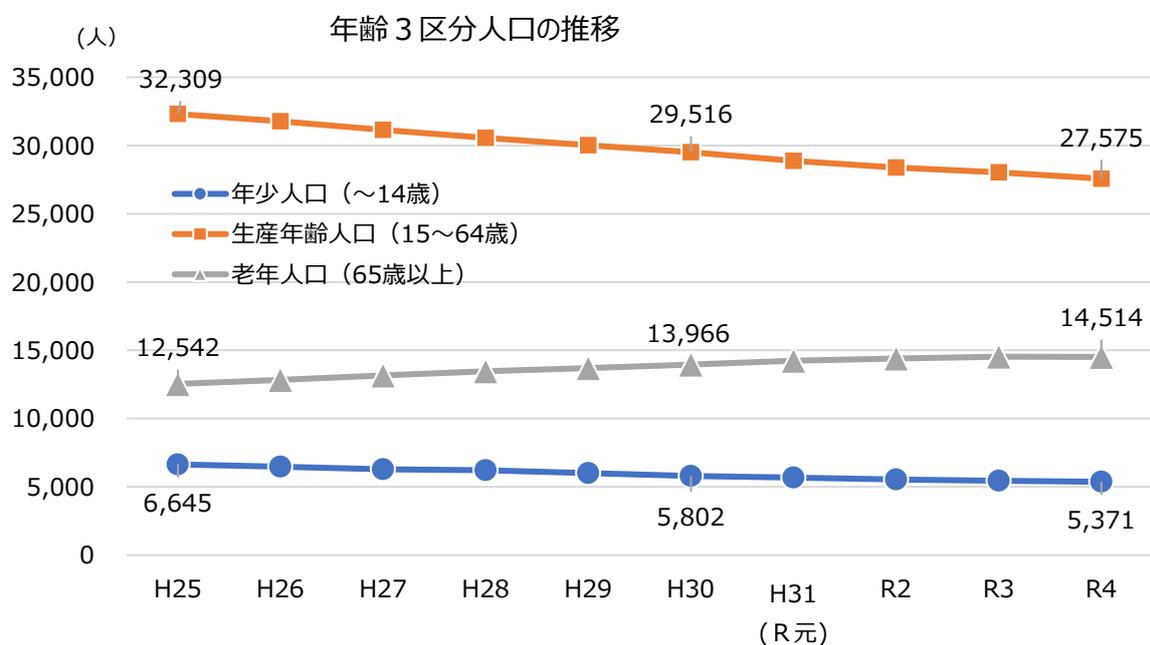
#### (1) 人口・世帯の推移

平成25年度からの本市の人口・世帯数の推移をみると、人口については毎年400人前後の減少が続いています。逆に、世帯数は毎年100世帯前後の伸びを示しており、市内世帯の核家族化や単身で生活する人々が増加していることがうかがえます。

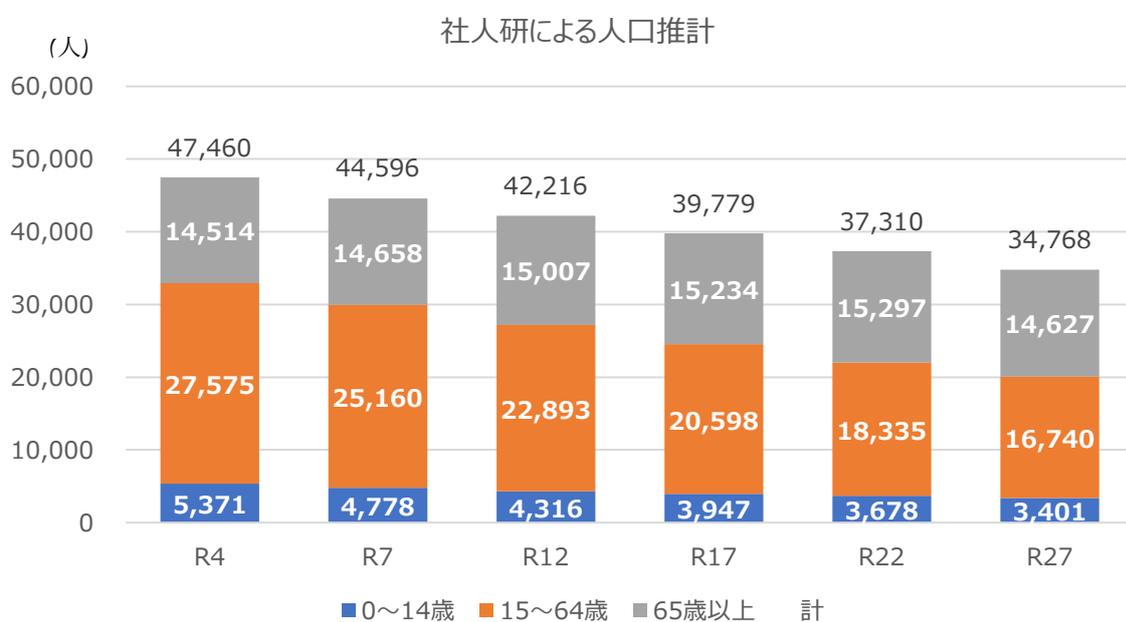


出典：住民基本台帳

人口推移を年齢別にみると、年少・生産年齢人口は減少傾向、老年人口は増加傾向が続き、将来推計においても少子・高齢化はこれからも進展していくとみられています。



出典：住民基本台帳



出典：R4年度は住民基本台帳

R7年度以降は 国立社会保障・人口問題研究所

「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

## 2 スポーツに関するアンケート調査結果

新たな「富士吉田市スポーツ推進計画」を策定するにあたり、スポーツに関する市民の意識や傾向を的確に把握し、今後の施策に適切に反映させるため、「スポーツに関するアンケート調査」を実施しました。

富士吉田市スポーツに関するアンケート調査概要	
調査目的	「富士吉田市スポーツ推進計画」の策定にあたり、市民および市内の企業・事業所のスポーツに関する意見や要望、また、現状等を的確に把握し、計画の策定及び今後のスポーツ施策の基礎資料とすることを目的とする。
調査年月日	令和4年7月19日から8月2日
回収率(回答数/標本数)	市民 42.8%(428人/1,000人) 企業・事業所 51.0% (51社/100社)
対象者	市民：令和4年4月1日現在、富士吉田市に居住する満10歳以上80歳未満の男女 企業・事業所：令和4年4月1日現在、富士吉田市内に拠点を置く企業・事業所
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送による配付及び回収

### 【アンケート結果中の記号について】

(S A)・・・単一回答(Single Answer)の略。選択回答は1項目のみ。

(M A)・・・複数回答(Multi Answer)の略。回答する選択肢の数に制限がある場合がある。

n・・・回答者数(number)を表す。「n=100」は、回答者数が100人ということ。

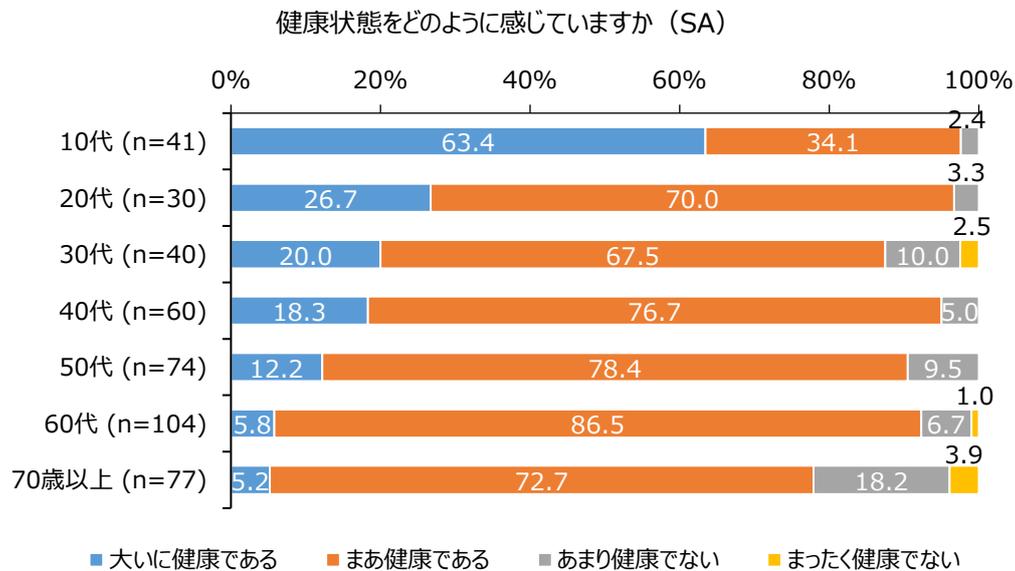
※アンケート結果の数値は小数点第2位を四捨五入しており、単一回答であっても合計が100%にならない場合がある。

※複数回答の場合は合計値が100%にならない場合がある。

## ■ 健康や体力について

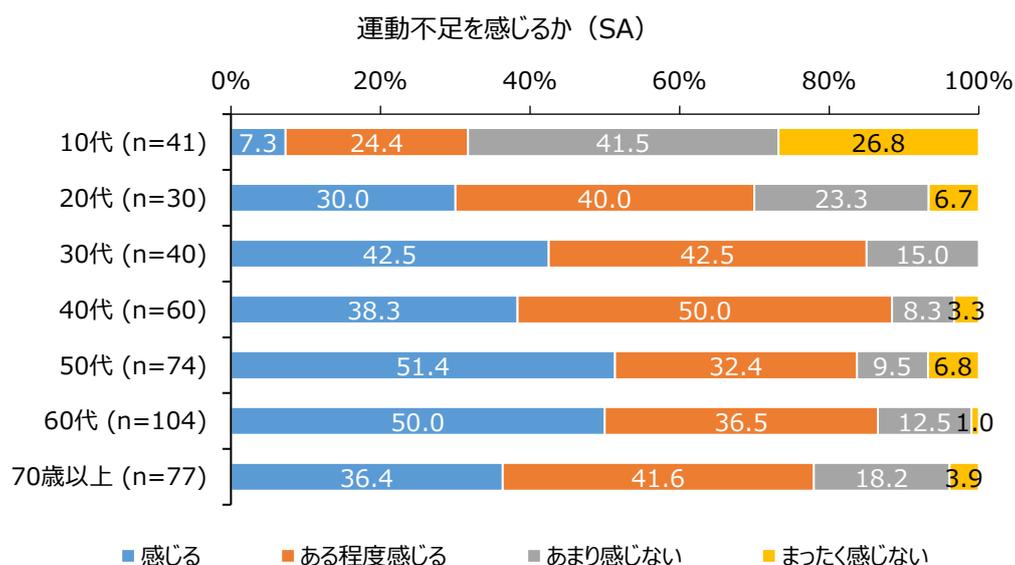
### ① 健康状態をどのように感じているか

健康状態について、「大いに健康である」と「まあ健康である」の合計が、10代ではほぼ10割、20代～60代では9割前後、70歳以上では8割弱となっています。



### ② 運動不足を感じるか

運動不足を感じるかについて、「感じる」と「ある程度感じる」の合計が、10代では約3割、20代では7割、30代～60代では8～9割、70歳以上では8割弱となっています。

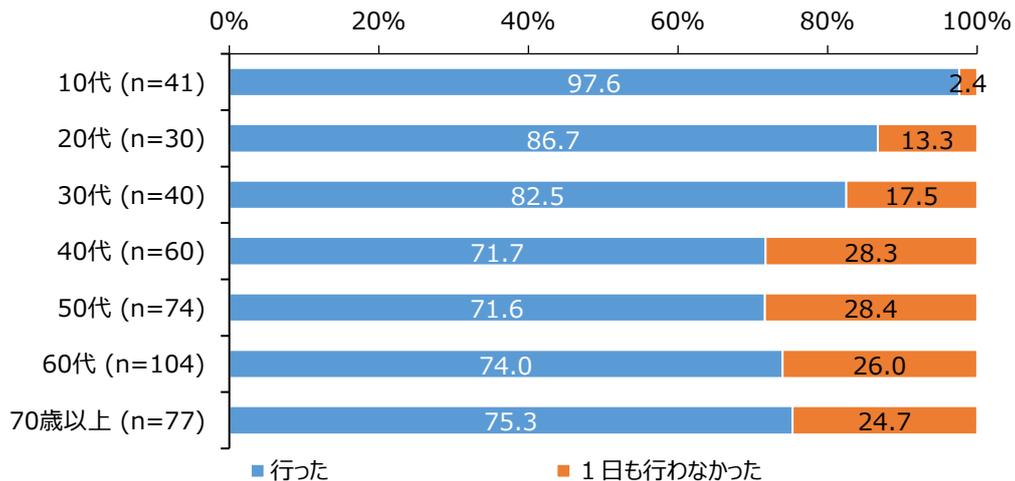


## ■ 運動やスポーツの取り組み状況について

### ① 直近1年間での運動歴

直近1年間で15分以上の運動を行った割合は、10代はほぼ10割、20代は9割弱と高くなりましたが、働き盛りの40代、50代においては7割強にとどまっています。

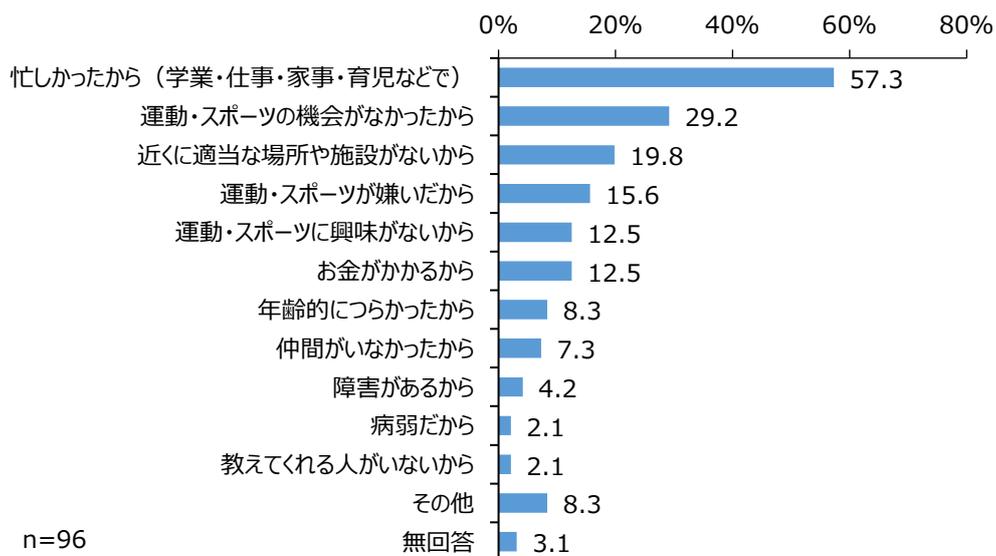
1年間に1日でも15分以上続けて運動やスポーツを行ったか (SA)



### ② 運動やスポーツを行わなかった理由

運動やスポーツを行わなかった理由は、「忙しかったから」の割合が最も高く、「運動・スポーツの機会がなかったから」、「近くに適切な場所や施設がないから」と続いています。

この1年間、運動やスポーツを行わなかった理由 (MA)

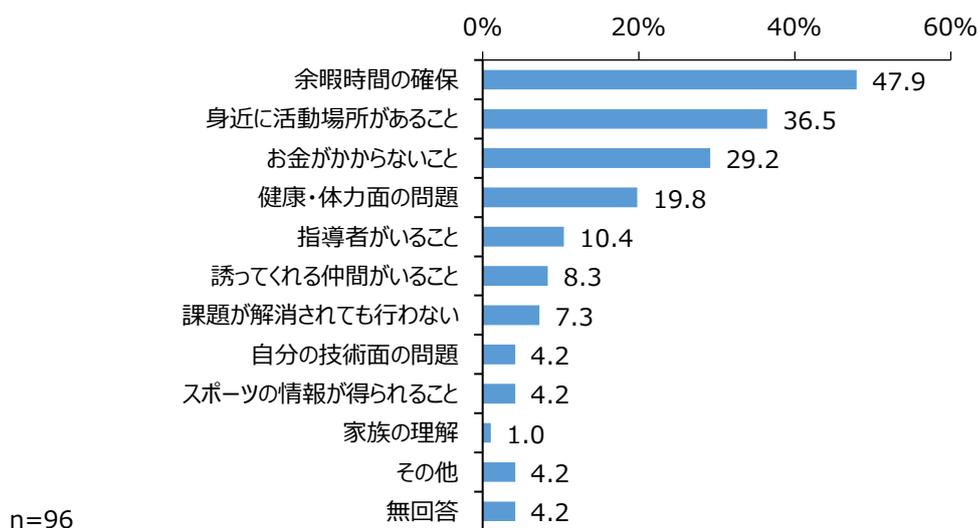


※①の設問で「1日も行わなかった」と回答した方

### ③ どんな問題が解消されれば運動やスポーツを行うか

どんな問題が解消されれば運動やスポーツを行うかについては、「余暇時間の確保」の割合が最も高く、「身近に活動場所があること」、「お金がかからないこと」と続いています。

どんな問題が解消されれば運動やスポーツを行うか (MA)

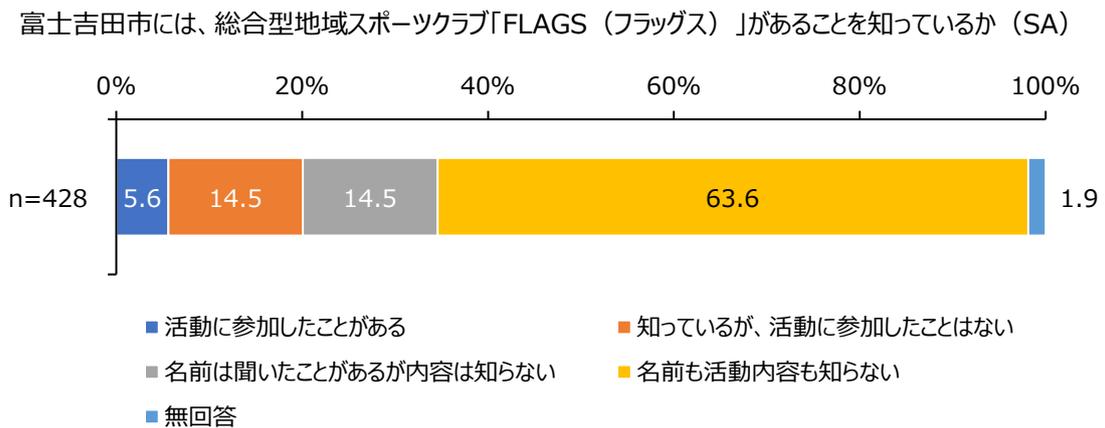


※①の設問で「1日も行わなかった」と回答した方

## ■ 地域でのスポーツ活動について

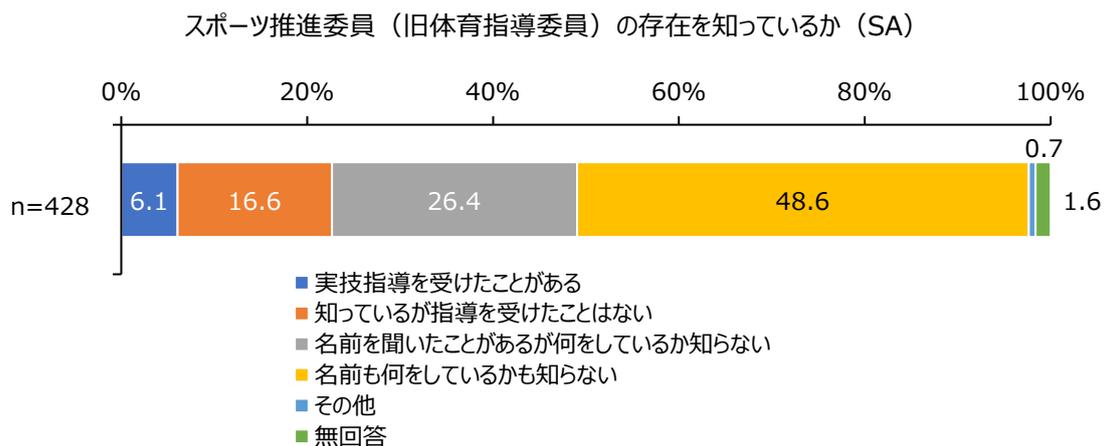
### ① 総合型地域スポーツクラブ「FLAGS（フラッグス）」を知っているか

総合型地域スポーツクラブ「FLAGS」について、「名前も活動内容も知らない」の割合が6割強と最も高く、「活動に参加したことがある」の割合は1割弱にとどまっています。



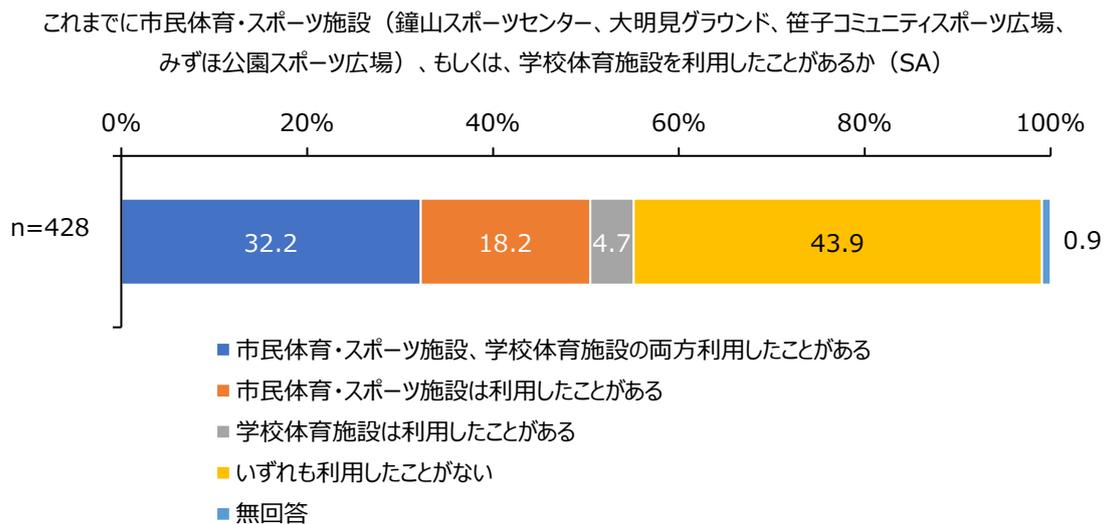
### ② スポーツ推進委員の存在を知っているか

スポーツ推進委員について、「名前も何をしているかも知らない」の割合が5割弱と最も高く、「実技指導を受けたことがある」の割合は1割弱にとどまっています。



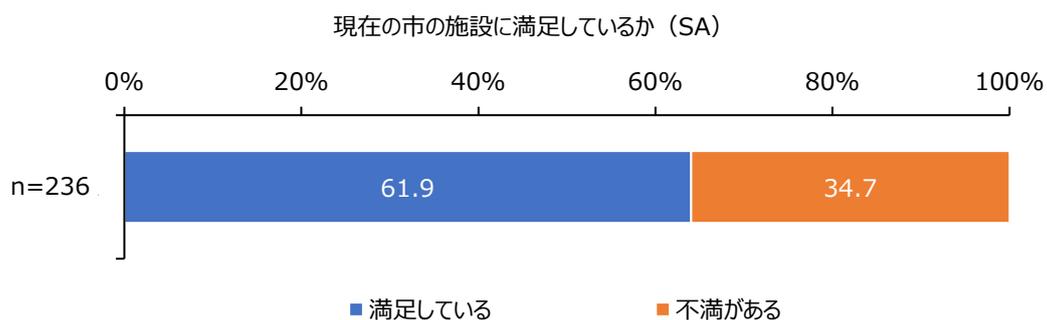
### ③ 市民体育・スポーツ施設及び学校体育施設の利用の有無

市民体育・スポーツ施設及び学校体育施設の利用については、「いずれも利用したことがない」が4割強と最も高い一方で、いずれかの施設を利用したことがあると回答した割合は合計で5割半ばとなっています。



### ④ 施設の満足度について

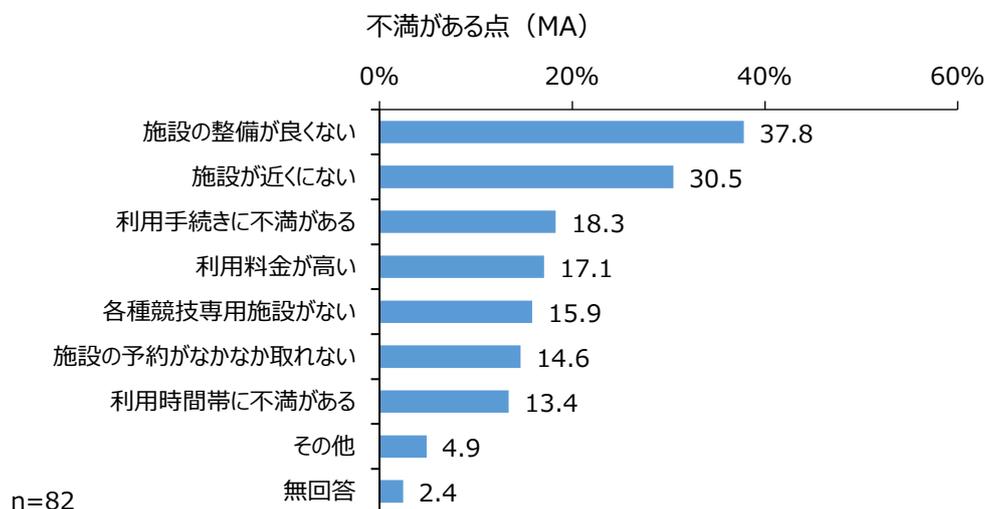
利用したことがある市民に満足度を聞いたところ、「満足している」が6割強、「不満がある」が3割強となっています。



※③の設問でいずれかの施設を利用したことがあると回答した方

## ⑤ 不満がある点

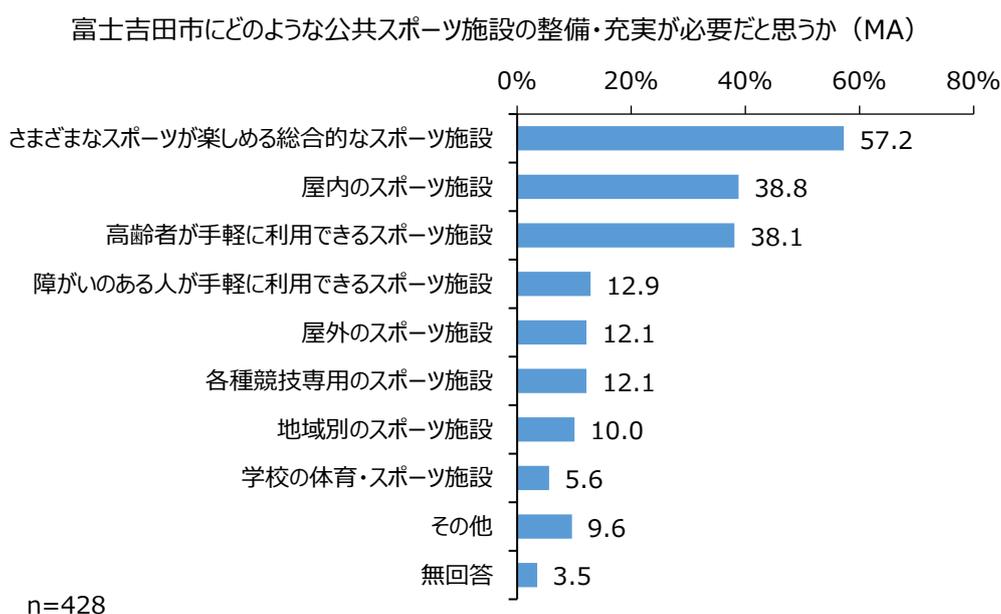
不満がある点については、「施設の整備が良くない」、「施設が近くにない」などの割合が高くなっています。



※④の設問で「不満がある」と回答した方

## ⑥ どのような公共スポーツ施設の整備・充実が必要か

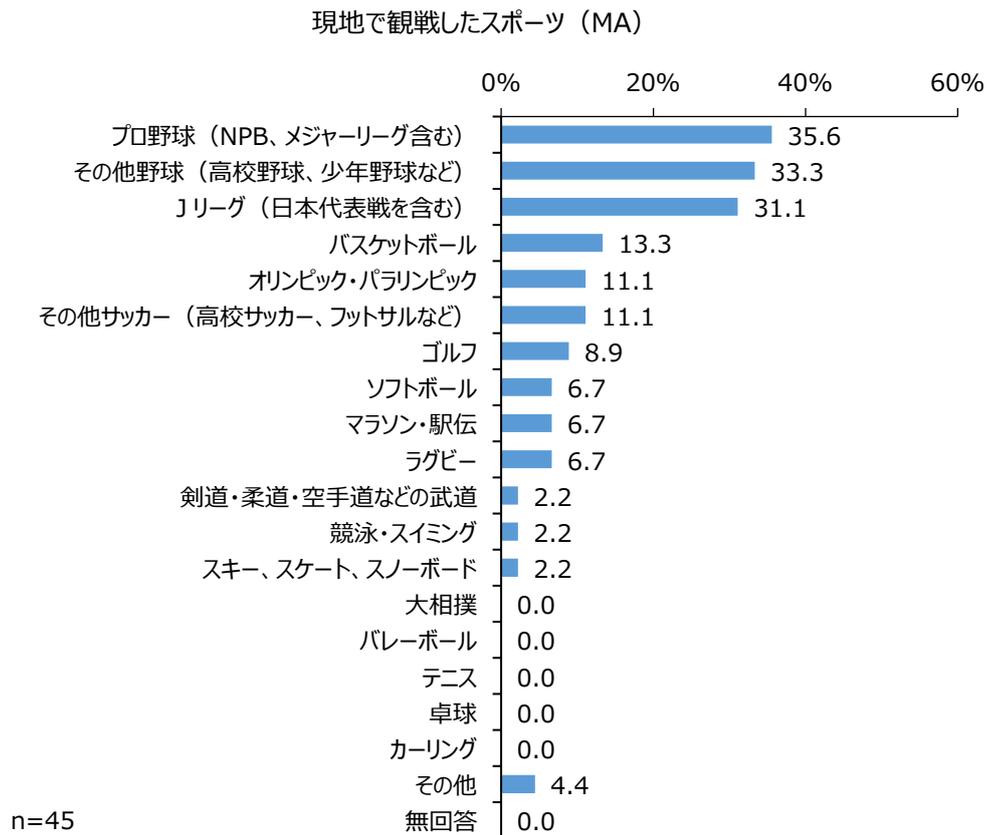
どのような公共スポーツ施設の整備・充実が必要かについては、「さまざまなスポーツが楽しめる総合的なスポーツ施設」の割合が最も高く、「屋内のスポーツ施設」、「高齢者が手軽に利用できるスポーツ施設」と続いています。



## ■ スポーツ観戦、スポーツに関する情報について

### ① 現地で観戦したスポーツ

スタジアム、陸上競技場、球場など現地で観戦したスポーツは、「プロ野球」、「その他野球」、「Jリーグ」などの割合が高くなっています。

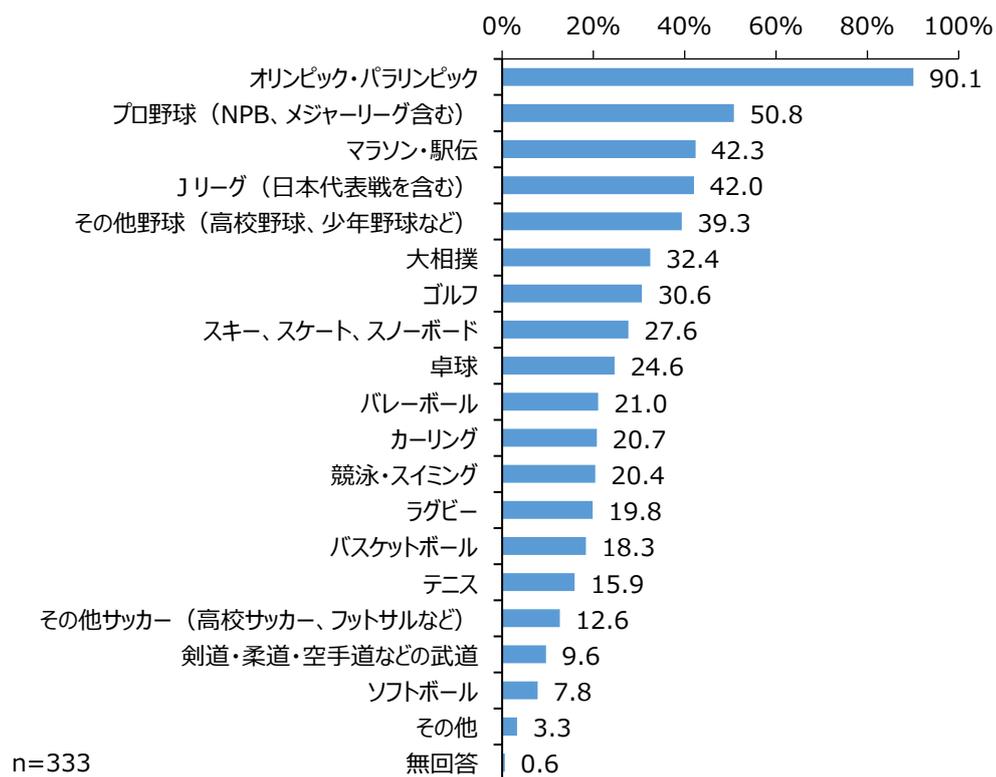


※この1年間にスタジアム、陸上競技場、球場など現地でスポーツを観戦したことがあると回答した方

## ② テレビ・ラジオ・インターネットなどで観戦したスポーツ

テレビ・ラジオ・インターネットなどで観戦したスポーツは、「オリンピック・パラリンピック」の割合が最も高く、「プロ野球」、「マラソン・駅伝」と続いています。

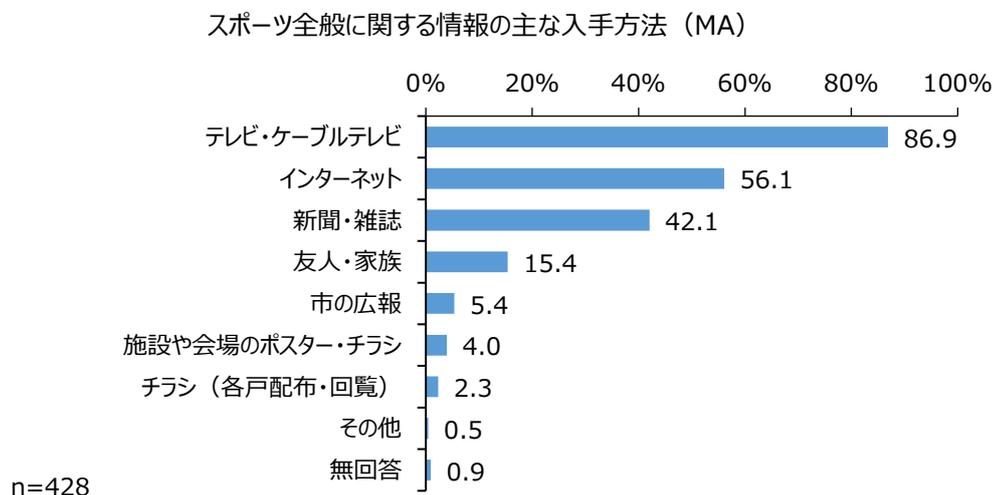
テレビやラジオ、インターネットなどで観戦したスポーツ (MA)



※この1年間にテレビやラジオ・インターネットなどでスポーツを観戦したことがあると回答した方

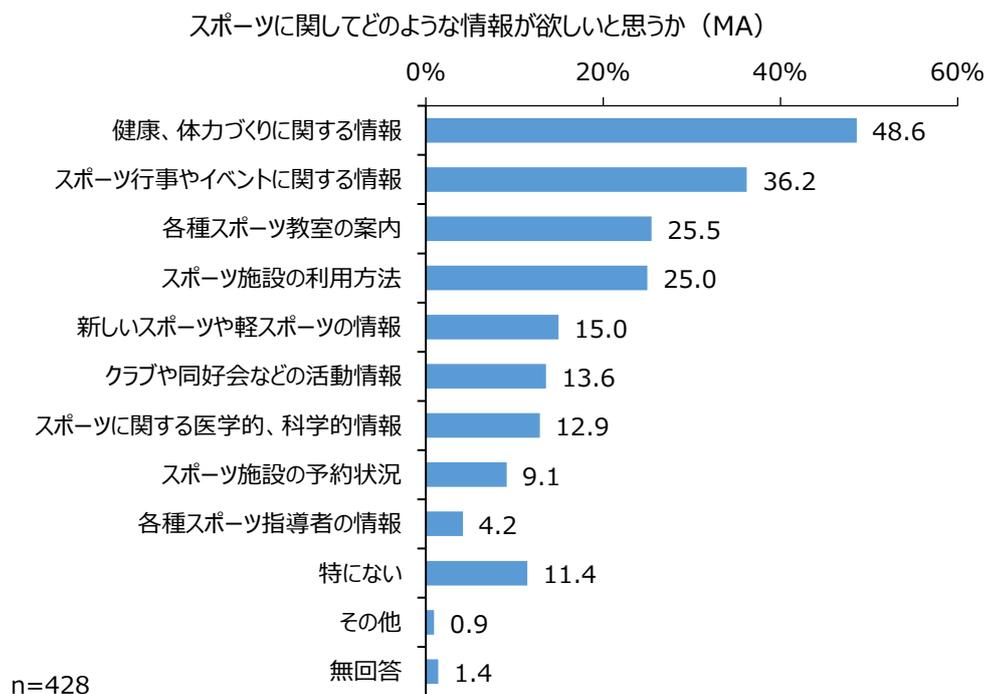
### ③ スポーツ全般に関する情報の主な入手方法

スポーツ全般に関する情報の主な入手方法としては、「テレビ・ケーブルテレビ」の割合が最も高く、「インターネット」、「新聞・雑誌」と続いています。



### ④ スポーツに関してどのような情報が欲しいと思うか

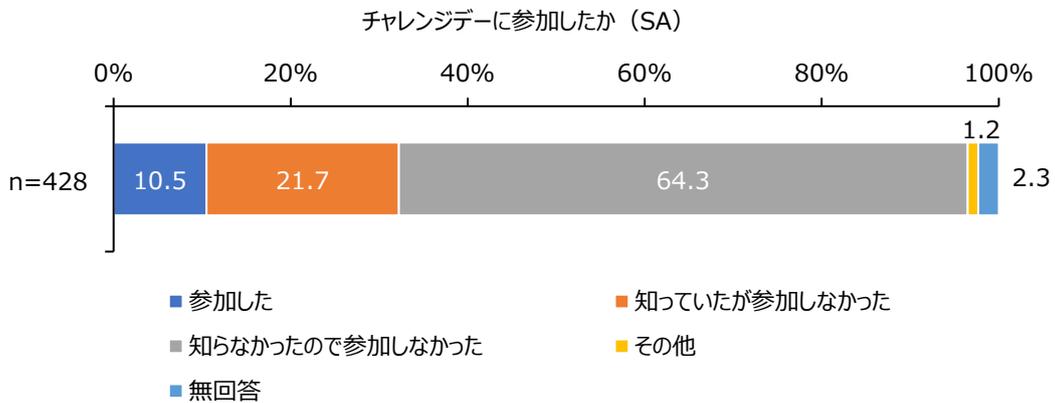
スポーツに関してどのような情報が欲しいと思うかについては、「健康、体力づくりに関する情報」の割合が最も高く、「スポーツ行事やイベントに関する情報」、「各種スポーツ教室の案内」と続いています。



## ■ チャレンジデーやスポーツ教室・研修会への参加について

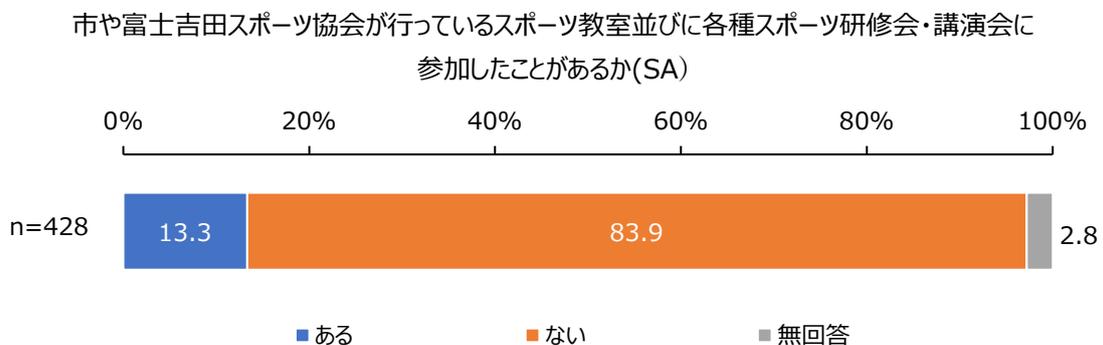
### ① チャレンジデーに参加したか

令和4年度のチャレンジデーの参加率をみると、「知らなかったので参加しなかった」の割合がもっとも高く6割強となっており、「参加した」は約1割にとどまっています。



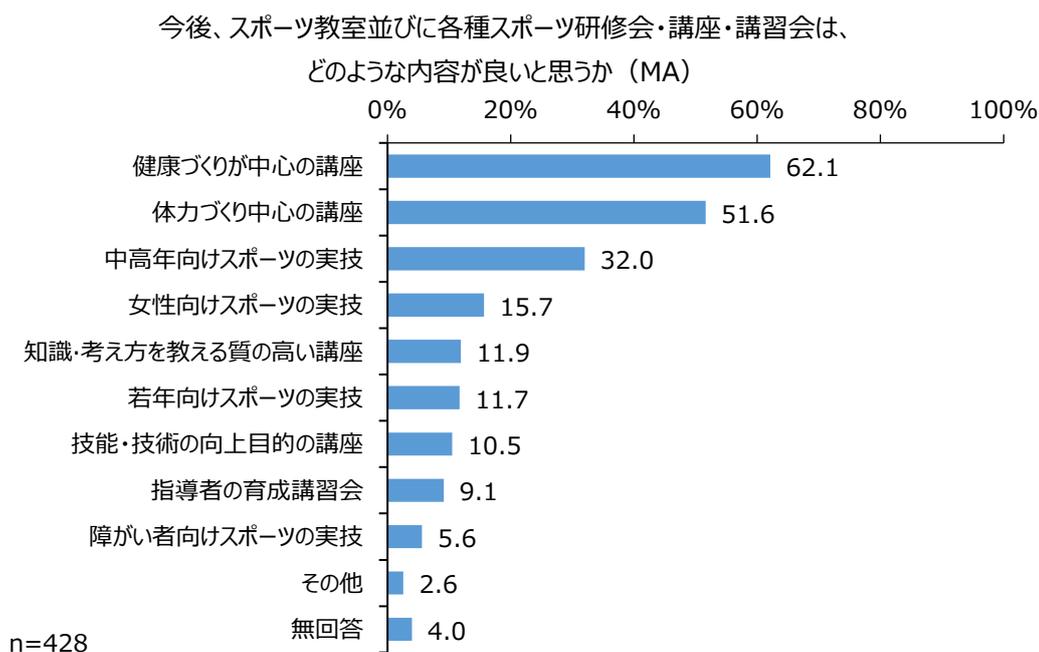
### ② 市や富士吉田スポーツ協会が行っているスポーツ教室並びに各種スポーツ研修会・講座・講演会に参加したことがあるか

スポーツ教室等に参加したことがあるかについては、8割強が参加しておらず、参加したことがあると回答した人は1割強にとどまっています。



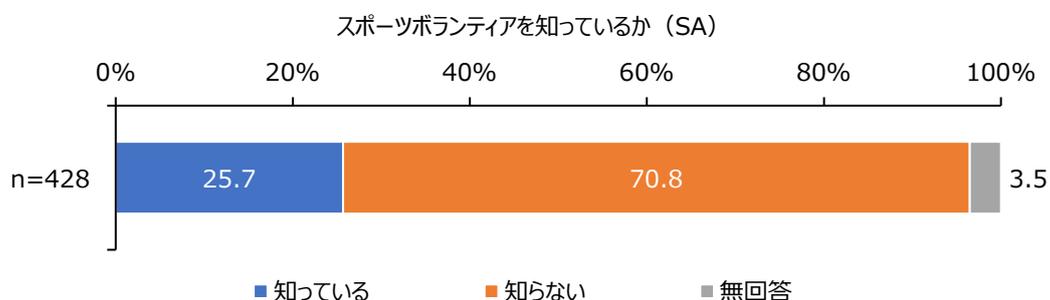
③ 今後、スポーツ教室並びに各種スポーツ研修会・講座・講習会はどのような内容が良いと思うか

今後、スポーツ教室等をどのような内容で開催していったらいいと思うか聞いたところ、「健康づくりが中心の講座」の割合が最も高く、「体力づくり中心の講座」、「中高年向けスポーツの実技」と続いています。



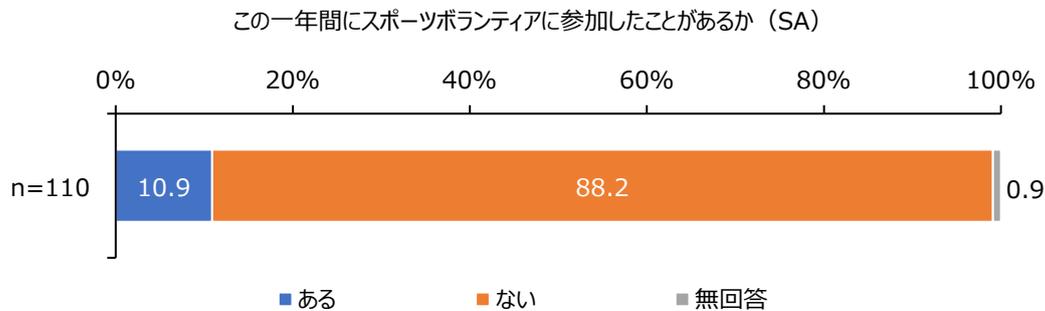
④ スポーツボランティアを知っているか

スポーツボランティアについて、「知らない」の割合が約7割となっており、「知っている」の割合は3割弱にとどまっています。



### ⑤ スポーツボランティアに参加したことがあるか

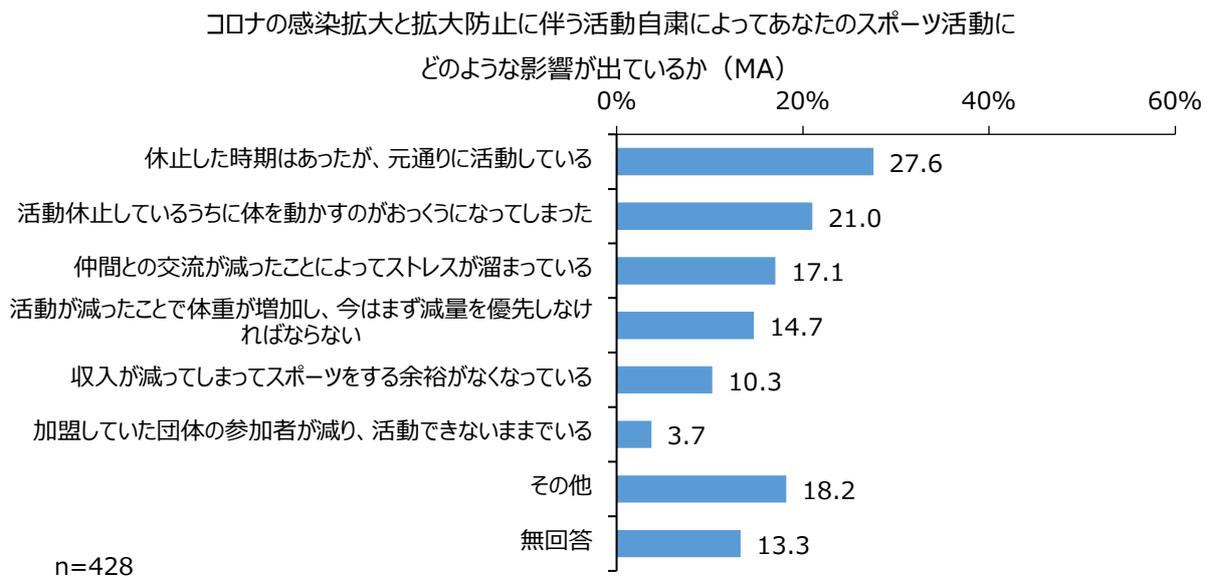
この1年間にスポーツボランティアに参加したことがあるか聞いたところ、9割弱が参加したことがなく、参加したことがある人は約1割にとどまっています。



※④の設問で「知っている」と回答した方

### ⑥ スポーツ活動に関する新型コロナウイルスの影響

コロナの感染拡大と拡大防止に伴う活動自粛によって、スポーツ活動にどのような影響が出ているか聞いたところ、「休止した時期はあったが、元通りに活動している」の割合が最も高く、「活動休止しているうちに体を動かすのがおっくうになってしまった」、「仲間との交流が減ったことによってストレスが溜まっている」が続いています。



### 3 競技団体へのヒアリング調査結果

富士吉田スポーツ協会に加盟する 30 の団体から今後の会員数の推移の見通しなどのヒアリングを実施し、主に以下の2項目について、多くの団体から意見がありました。

#### 【会員数の確保】

- 少子高齢化の進行により、新規加入が減少し、会員の高齢化が進んでいる。
- そこに新型コロナウイルスの流行が追い打ちをかけ、大会やイベントが中止となった他、練習場に足を運ぶ人が減ったことにより会員数の減少に拍車がかかっている。
- 令和4年度の会員数は6,048人であるのに対し、令和14年度の会員数見通しは4,883人となっており、19.2%の減少が予想されている。
- 新規加入者の減少による競技人口の減少、競技力の低下が懸念される。
- 若年層を中心とした会員確保が将来に向けた最大の課題である。

#### 【施設等の整備】

- 現在使用している施設や設備について、一部老朽化が進んでいることから、改修や更新を希望する。
- 大規模屋内体育施設や専用グラウンドなど、より質の高い競技を行うための施設の整備を希望する。
- 定期的に練習ができる会場の確保の提供を希望する。

## 4 本市のスポーツ推進における課題

社会情勢やアンケート、競技団体へのヒアリングなどから、本市のスポーツ推進における主な課題を整理すると、次の6項目が挙げられます。

### (1) 幼児期・青年期における運動・スポーツ

令和3年度山梨県新体カテスト・健康実態調査の結果から、新型コロナウイルスの感染拡大により児童生徒を取り巻く環境が一変した結果、全国的に子供の体カレベルの低下傾向が進んだ状況が明らかとなりました。

また、少子高齢化の更なる進行により年少人口は減少を続けており、教員の業務多忙などと相まって、小中学校において学校部活動の継続が困難となる状況が生じています。

こうした課題を解消するため、子どもがスポーツに触れる機会を引き続き確保し、体カレベルの維持につなげていくことが必要です。

### (2) 働く世代・子育て世代における運動・スポーツ

アンケート結果から、年代別の運動・スポーツ実施率は働く世代・子育て世代の40代～50代を中心に落ち込む傾向が見て取れます。余暇時間の確保が困難な働く世代・子育て世代が運動やスポーツに取り組めるよう、環境づくりを進めていく必要があります。

また、同アンケートにおいて、従業員の健康増進や福利厚生面などで運動やスポーツを重視していると回答した割合は2割弱に留まっており、企業に向けた働きかけも重要な要素となってきます。

### (3) 高齢者における運動・スポーツ

アンケート結果によると、自身が「健康である」と考える割合は、年齢が上がるにつれて減少しています。

今後も進行する超高齢社会においては、フレイル<sup>1</sup>を予防し、健康寿命を延ばすことが目標となるため、健康増進の観点からも高齢者が日常的に運動やスポーツを実施できる環境を整備することが重要となります。

---

<sup>1</sup> 加齢により心身が老い衰えた状態のこと

#### (4) 障がい者における運動・スポーツ

障がい者のスポーツ参加促進に関する調査研究によると、成人障がい者のスポーツ実施率は成人一般と比べて大きく下回っています。

障がい者が、希望すればいつでも運動・スポーツに取り組むことができるよう、ハード・ソフト両面からの環境整備が必要となります。

#### (5) スポーツを支える環境

アンケートやヒアリングの結果、スポーツボランティアなどの認知度の低さ、会員減少などに伴う協会等各種団体の厳しい運営状況等が明らかとなりました。今後のスポーツ施策の推進のため、スポーツを「ささえる」体制の充実が求められています。

また、アンケートにおいて東京オリンピック・パラリンピックをテレビ等で視聴したという回答は非常に多く、今後は国の第3期スポーツ推進計画にも掲げられている「みる」ことによるスポーツへの参画の視点も必要となってきます。

#### (6) スポーツ施設の整備

協会等各種団体からは、施設の改修・充実を求める声が多く上がっているほか、市民からは様々なスポーツが楽しめる総合的なスポーツ施設が必要であるとのアンケート結果が出ています。

こうした関係者や市民のニーズを踏まえた、長期的なスポーツ施設の整備が必要となります。

## 第4章 富士吉田市スポーツ推進計画の基本的な考え方

### 1 計画の基本理念

富士吉田市スポーツ推進計画では、以下の基本理念のもと、市民だれもが生涯にわたり、運動やスポーツにさまざまな形で参画できるよう、スポーツに触れ、楽しむ機会をライフステージに応じて提供するとともに、障がい者スポーツやスポーツボランティアなどのかかわりにより、スポーツを「する」「みる」「ささえる」機会を増やすことを通じて、だれもが健康で幸福度の高い暮らしを営むことや、多くの人々が交流し、支え合うことで連帯を強くし、地域社会の活性化につなげることを目指します。

### 基本理念

だれもが いつまでも  
スポーツに親しむことができるまち ふじよしだ  
～スポーツを通じて 健康で豊かな まちづくり～



## 2 計画の基本方針

市民だれもが、いつまでも生涯にわたってスポーツに親しめ、幸福度の高い、健康で豊かな社会を実現するため、今後 10 年間を見通し、次の三つの柱を基本方針として、具体的施策を推進していきます。

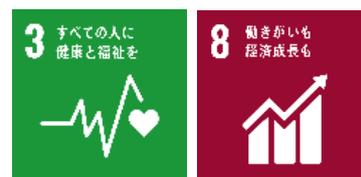
### 基本方針Ⅰ 生涯スポーツの充実

幼児期からの遊びを通して、運動やスポーツに触れる機会を増やし、障がいの有無に関わらず、子どもから高齢者まで生涯にわたりスポーツを親しむ機会を充実させていきます。



### 基本方針Ⅱ スポーツ環境の充実

スポーツ関係団体の支援や富士吉田市の特色あるスポーツ活動、また、プロスポーツチームなどとの連携を強化するなか、スポーツ環境の充実に努めていきます。



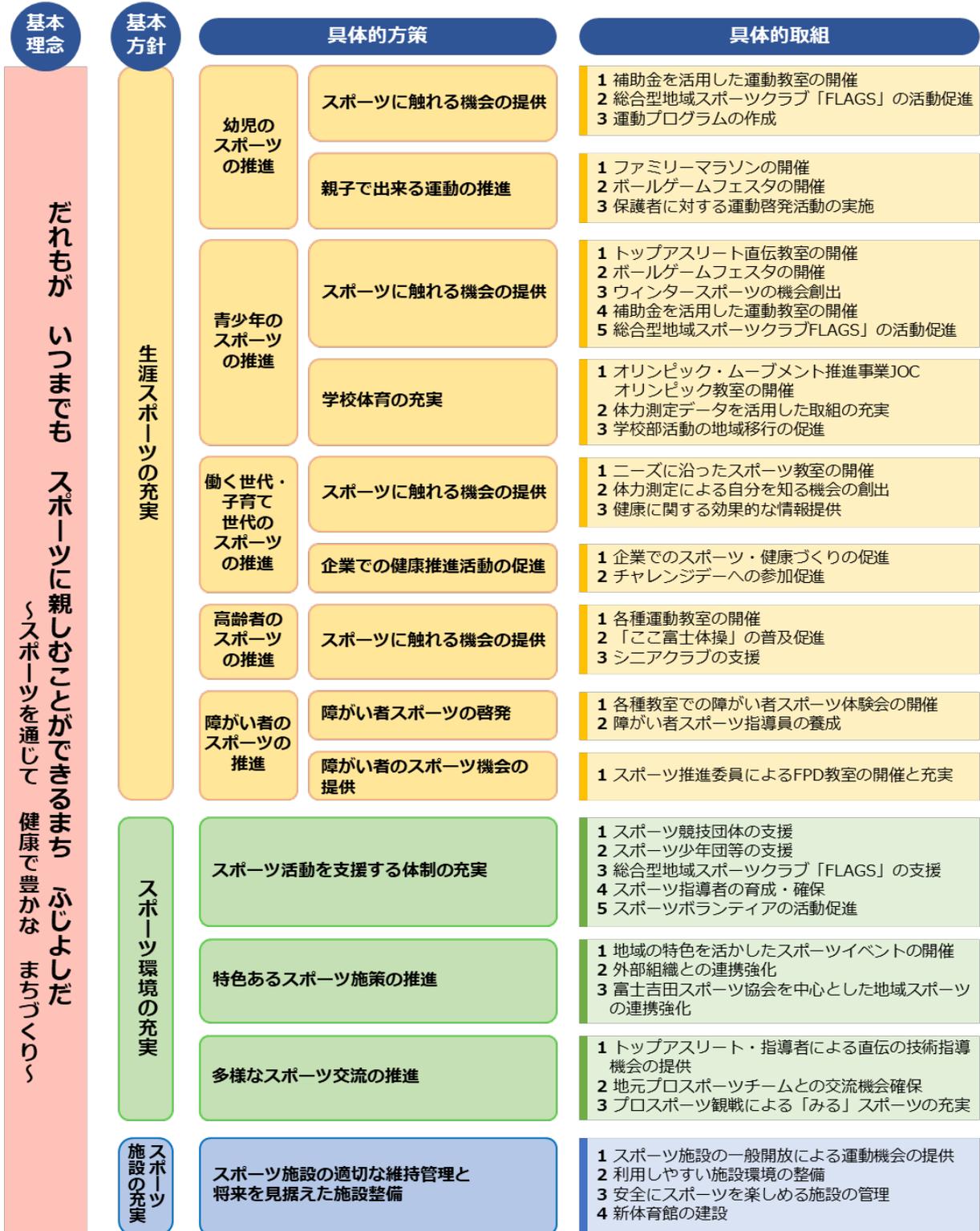
### 基本方針Ⅲ スポーツ施設の充実

学校体育施設の一般開放による運動機会の提供とともに、時代のニーズに沿った鐘山スポーツセンターの整備など、市内のスポーツ施設の充実に図り、市民が安心して利用できる環境を整備していきます。



### 3 計画の体系図

## 富士吉田市スポーツ推進計画の体系図



## 第5章 本市のスポーツ推進に向けた取り組み

### 基本方針1 生涯スポーツの充実



#### 1 幼児期のスポーツの推進

##### 現状と課題

幼児期においては、様々な動きを経験することによって、各種動作や運動技能が身につくことから、遊びを中心とした運動を生活の中に取り入れることが必要となります。

現状では運動・スポーツ実施に係る保護者・保育者に対する普及啓発が不足していることから、運動の機会や情報の提供を行っていく必要があります。

##### 具体的取組

#### (1) スポーツに触れる機会の提供

##### ① 補助金を活用した運動教室の開催

各種補助金などを活用し、親子でスポーツに親しめるイベントや教室を通して、子どもたちが運動に触れる機会を提供します。

##### ② 総合型地域スポーツクラブ「FLAGS」の活動促進

「FLAGS」の活動として新たに幼児を対象とした教室を開催し、幼児の体を動かす機会を積極的に確保します。



FLAGS

## 総合型地域スポーツクラブ FLAGS とは？



NPO 法人富士吉田総合型地域スポーツクラブ（Fujiyoshida Local Area General Sports Club）の略称。

『運動には抵抗がある』『友達と一緒に運動したい』『沢山のスポーツに触れたい』などスポーツが苦手な人でもスポーツをもっとしたい人でも誰でも参加できる総合型地域スポーツクラブで、子ども向けのミニバス・サッカーなどを行うキッズ教室、小中学生を対象としたウエイトリフティング教室、高齢者向けのウォーキングや健康管理サポートを行う若返り教室、土曜日の午後に誰でもスポーツが楽しめるどよスポ教室など様々な市民を対象とした教室を開催している。

### ③ 運動プログラムの作成

昭和大学の監修のもと、遊びやダンスなどを中心とした本市オリジナルの幼児期の遊びのプログラムを作成し、市内保育園・幼稚園などへの巡回活動を積極的に行い、普及啓発を図っていきます。

## (2) 親子で出来る運動の推進

### ① ファミリーマラソンの開催

富士吉田スポーツ協会主催で富士急ハイランドにて実施した「ふじよしだファミリーマラソン」を毎年の恒例行事として定着させるなど、親子で楽しく体を動かす機会を提供します。



ふじよしだファミリーマラソン

## 富士吉田スポーツ協会とは？

スポーツ協会は、全国の都道府県・市町村に設置されているスポーツ組織。

富士吉田市では『公益財団法人富士吉田スポーツ協会』として、富士吉田市のスポーツ全般を推進し、市民の健康増進を図ることを目的として運営され、市内にあるスポーツ団体の取りまとめ、市民向けスポーツ教室や各種スポーツイベントなども行うなど、幅広い活動を行っている。



### ② ボールゲームフェスタの開催

一般社団法人日本トップリーグ機構と連携したボールゲームフェスタを継続実施し、遊びながら幼児期に獲得すべき動作を取り入れたコンテンツに触れ、運動能力のアップに加え、親子の絆を深める場を提供します。

### ③ 保護者に対する運動啓発活動の実施

子どもたちが運動・スポーツを好きになり、進んで体を動かす習慣を身に着けるためには保護者の理解と協力が必要となるため、定期的な情報提供に努めます。

## 2 青少年のスポーツの推進

### 現状と課題

山梨県新体カテスト・健康実態調査における体力合計点<sup>2</sup>を見ると、本市は6歳から14歳まですべての年齢において全国平均を下回っており、長年この傾向が続いていることから、各学校において本結果に基づく課題を把握し、体力の向上に努めていく必要があります。

また、少子化の進行により中学校では一部部活動が廃止となるなどの動きも見られ、多様なスポーツに接する機会の減少が懸念されています。

学校部活動を教員の視点からみると、競技経験のない教員が指導をせざるを得ない現状があり、他業務の忙しさと相まって、部活動の指導が教師の大きな業務負担となっています。国の「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」においても、R5年度以降、段階的に休日の部活動の運営主体を学校から地域に移行していく方針が示されるなど、解決すべき喫緊の課題と認識されています。

### 具体的取組

#### (1) スポーツに触れる機会の提供

##### ① トップアスリート直伝教室の開催

子どもたちのスポーツ離れが進むなか、トップアスリートによる指導を通してスポーツの魅力を伝えるとともに、競技力向上とスポーツ人口の拡大を目指し、各種スポーツ講演会やスポーツ教室を開催します。

##### ② ボールゲームフェスタの開催

一般社団法人日本トップリーグ機構と連携したボールゲームフェスタを継続実施し、小学生がサッカー・ラグビー・ハンドボールなど様々な競技を1日で体験し、一流選手と一緒にスポーツを楽しむ機会を提供します。



ボールゲームフェスタ

<sup>2</sup> 種目ごとの測定値を10点満点で換算し、計8種目の80点満点での一人一人の体力合計点から平均値を算出したもの

### ③ ウィンタースポーツの機会創出

スケートリンクの有効活用について、市内のスケートリンクを有する企業と活用の検討を進め、青少年のウィンタースポーツの奨励につなげていきます。

また、ウィンタースポーツの習慣化を図るため、富士吉田スポーツ協会主催の低学年向けスキー・スケート・アイスホッケー教室等の開催を検討し、ウィンタースポーツに親しむきっかけを作ります。

### ④ 補助金を活用した運動教室の開催

各種補助金などを活用し、青少年がスポーツに親しむことのできるイベントや教室の充実を図ります。

### ⑤ 総合型地域スポーツクラブ「FLAGS」の活動促進

「FLAGS」が実施している小中学生を対象とした教室を、参加者のニーズを的確に捉えるなかで継続して実施し、小中学生の運動機会の確保に努めます。

## (2) 学校体育の充実

### ① オリンピック・ムーブメント推進事業 JOC オリンピック教室の開催

JOC パートナー都市として、日本オリンピック委員会（JOC）の主催による、市内の中学2年生を対象としたオリンピックを招いた教室の継続開催に取り組みます。

本市では、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた事前合宿の誘致活動を契機に、平成 28 年から継続的に開催しており、大会終了後も本教室を通じて、子供たちがオリンピックとのふれあいの中から学び、運動やスポーツと関わることで、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に繋げることを目的に実施していきます。



JOC オリンピック教室(写真提供：JOC)

## JOC オリンピック教室とは？

公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC) は、2021 年に JOC Vision 2064 「スポーツの価値を守り、創り、伝える」を公表し、活動指針のひとつに「オリンピズムが浸透している社会の実現」を掲げ、オリンピック・ムーブメントを推進しています。JOC オリンピック教室は JOC のオリンピック・ムーブメント推進活動の一環として、オリンピックを招き中学 2 年生を対象として、運動と座学の授業を通じて「オリンピズム」や「オリンピックの価値」を伝えることを目的としています。



公益財団法人日本オリンピック委員会

### ② 体力測定データを活用した取組の充実

全国体力調査や小中学校での体力測定データを活用して、全国平均や県平均と比べて優れている部分はさらに伸ばさせるとともに、バランスの取れた発育を促すための体力づくりの方法などについて学識経験者を交えて研究し、教育現場に反映していきます。

### ③ 学校部活動の地域移行の推進

学校部活動の地域移行に向け、関係団体等を交えた検討を行い、円滑な地域移行を推進していきます。

### 3 働く世代・子育て世代のスポーツの推進

#### 現状と課題

アンケート結果によれば、市民の78.3%が運動不足を感じていると答えており、特に男性は50代、女性は40代と働き盛りの年代で最も運動不足を感じる割合が高くなっています。

一方で、同アンケートにおいて、「1年間で15分以上の運動を1回も行わなかった」と答えた人が20%強おり、運動不足の実感が必ずしも運動習慣に結びついていない現状が見て取れます。運動やスポーツを行わなかった理由として、1位の「忙しかったから」に次いで「運動・スポーツの機会がなかったから」が2位、「近くに適当な場所や施設がないから」が3位となっており、こうした層への運動の場や機会の提供が求められています。

また、市内の企業において、従業員の健康増進や福利厚生面などで運動やスポーツを重視している割合は2割弱との結果も出ており、企業側への意識改革のアプローチも必要となります。

#### 具体的取組

##### (1) スポーツに触れる機会の提供

###### ① ニーズに沿ったスポーツ教室の開催

市や富士吉田スポーツ協会が行っている各種スポーツ教室について、働く世代でも参加しやすい内容・場所・時間帯でのプログラムを検討し、SNSなどを活用した情報提供を行うことにより参加者の増加に繋げていきます。

###### ② 体力測定による自分を知る機会の創出

市や富士吉田スポーツ協会が行っている各種スポーツ教室やイベントにおいて、体力測定会などを実施することで、自分の体力を知る機会を創出し、それぞれに見合った教室を開催することにより、運動の習慣化に繋げていきます。

また、昭和大学との連携を強化して、事業所ごとの体力測定会の開催や、体力測定結果のフィードバック、健康カウンセリング会の開催などを行います。

###### ③ 健康に関する効果的な情報提供

健康診断の結果やスポーツ教室の開催状況、自宅で気軽にできる運動メニューなどの健康に関する多様な内容について、多忙な働く世代・子育て世代にも届くよう、SNSなどを活用した効果的な情報提供を行っていきます。

## (2) 企業での健康推進活動の促進

### ① 企業でのスポーツ・健康づくりの促進

企業の持つ施設や人材などを地域スポーツに活用できるよう、市から働きかけを行います。

また、市・スポーツ関係団体・企業の連携・協働により、市民にスポーツを行う場や機会を提供していくことを目指します。

### ② チャレンジデーへの参加促進

チャレンジデーは全市民参加型のイベントですが、企業での運動習慣の導入（朝礼での体操など）のきっかけとして非常に効果的であるため、企業に対して本イベントの周知を行い、企業単位での運動習慣の定着を図っていきます。



チャレンジデー

## チャレンジデーとは？

日常的なスポーツの習慣化に向けたきっかけづくりやスポーツによる住民の健康づくり、地域の活性化を目的とした住民総参加型イベント。

参加者は15分以上の運動を行ったうえで、結果を自治体に報告する。

人口規模がほぼ同じ自治体と対戦し、参加率が高かったほうが勝利となる。

毎年5月の最終水曜日に世界中で実施されており、本市も例年参加している。



## 4 高齢者のスポーツの推進

### 現状と課題

世界有数の長寿国である日本において、高齢者のフレイルを予防して健康寿命を伸ばすには、日々の運動が非常に重要になります。

高齢者が日常的に運動することができるよう、無理なく気軽に続けられる運動の場や機会の提供が必要です。

### 具体的取組

#### (1) スポーツに触れる機会の提供

##### ① 各種運動教室の開催

健康増進や介護予防の視点に立ち、市主催による60歳以上の市民を対象とした「ふらっと体カアップ倶楽部」を引き続き開催するとともに、「富士の里市民大学」、「寿教室」などの高齢者のニーズに沿った運動・スポーツの教室を定期的で開催し、健康づくりに対する意識向上に努めます。



ふらっと体カアップ倶楽部

##### ② 「ここ富士体操」の普及促進

下半身と体幹の強化を意識した「ここ富士体操」について、自宅でも気軽にできる運動として、高齢者や市民に向けて更なる周知を図り、様々な場所で推進していきます。



ここ富士体操

## ここ富士体操とは？

令和3年10月の「転倒予防都市宣言」に合わせて、富士吉田市スポーツ推進委員と昭和大学により考案された転ばないからだづくりのための体操。

大人バージョンとキッズバージョン、高齢者バージョンの3種類があり、誰でも気軽に体幹や反射神経の強化が図ることができる内容となっている。



転倒予防都市  
ふじよしだ

### ③ シニアクラブの支援

生きがいと健康づくりを目的として活動するシニアクラブに対して、各地区で実施しているスポーツ大会へのスポーツ推進委員等の派遣などを通じて、活動を支援します。

また、富士登山競走をはじめとした各種スポーツ大会にスポーツボランティアとしての参加を依頼し、スポーツに触れる機会を創出することで、「みる」「ささえる」スポーツの推進につなげていきます。

## 5 障がい者のスポーツの推進

### 現状と課題

障がいの有無にかかわらず、望む人すべてがスポーツに親しむことができる社会の実現が求められていますが、現状では成人の障がい者のスポーツ実施率は成人一般と比べて大幅に低くなっており、大きな隔たりがあります。

障がい者がいつでも、気兼ねなくスポーツに取り組めるよう、障がい者を取り巻くスポーツ環境を整備するとともに、一般社会における障がい者スポーツの理解促進を図っていく必要があります。

### 具体的取組

#### (1) 障がい者スポーツの啓発

##### ① 各種教室での障がい者スポーツ体験会の開催

各種スポーツ教室の中にゴールボールなどのパラスポーツを体験する機会を設けることにより、市民が障がい者スポーツに触れる機会を創出し、関心の向上につなげていきます。



ゴールボール

##### ② 障がい者スポーツ指導員の養成

様々な場において障がい者に対するフォロー等が行えるよう、障がい者を含む一般競技団体の指導者、スポーツ推進委員、現役の教師等に対する障がい者スポーツ指導員資格の取得を促進します。

## (2) 障がい者のスポーツ機会の提供

### ① スポーツ推進委員による FPD 教室の開催と充実

障がい者スポーツ大会の定期開催に向けた、環境づくりと支援を継続して行います。

スポーツ推進委員が中心となって定期的実施している、障がい者を対象とした「FPD スポーツ教室」のさらなる周知を図り、健常者と障がい者が共にスポーツを行う機会を提供します。同時に、内容を充実させることにより、障がい者スポーツの運営スタッフ、ボランティア育成の機会にも活用し、パラスポーツの普及を図っていきます。



FPD 教室

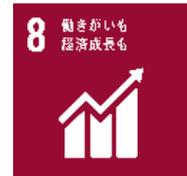
### FPD 教室とは？

FPD は「For Persons With Disabilities」の略で、運動の機会が少ない障がい者を対象としたスポーツ教室を、平成 28 年度よりスポーツ推進委員が中心となって開催している。

教室では軽スポーツからパラスポーツまで多様な競技を実施。

近年では、一般の子供達が教室に参加するなど、障害の有無を超えて様々な世代の人がスポーツを通じて交流する場となっている。

## 基本方針 2 スポーツ環境の充実



### 1 スポーツ活動を支援する体制の充実

#### 現状と課題

スポーツ少年団や各種競技団体は、スポーツ活動を推進していく上で非常に重要な組織ですが、少子高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響で、規模縮小を余儀なくされています。

また、アンケートの結果では、スポーツ推進委員やスポーツボランティアの認知度は半数以下となっています。

スポーツ活動を推進する体制を維持していくため、各組織への支援を継続するとともに、指導者やボランティアなどの新たな人材の確保が急務となっています。

#### 具体的取組

##### ① スポーツ競技団体の支援

各競技種目の競技力向上を図るため、各協会及び団体に対する補助金などを活用した支援を充実させていくとともに、会員数や活動実績に応じた補助制度の検討も進めていきます。

##### ② スポーツ少年団等の支援

スポーツ少年団に対する富士吉田スポーツ協会からの運営費補助を継続するとともに、他市の例等を参考に、増額を含めた補助金の見直しを検討していきます。

また、近年増加しているスポーツクラブとも連携し、練習場所の優先提供などを通じて青少年がスポーツを行う機会の確保に努めます。



スポーツ少年団

### ③ 総合型地域スポーツクラブ「FLAGS」の支援

引き続き事務所の提供を行うなど、「FLAGS」の多彩な活動を支援し、他地域のスポーツクラブとの連携強化を図る中で、活動の活発化を促します。

### ④ スポーツ指導者の育成・確保

富士吉田スポーツ協会主催の指導者育成講習会のさらなる充実を図り、日本スポーツ協会公認指導者資格等取得のための受講料補助制度の創設を検討していきます。指導者養成の講習会においては、昭和大学との連携により、トレーニング方法、スポーツ栄養、障害予防などを総合的に学ぶ機会を設けます。

### ⑤ スポーツボランティアの活動促進

各種教室やスポーツイベント、広報・SNS等での更なる周知を行い、スポーツボランティアとして携わるきっかけの創出に努めていきます。



スポーツボランティア

## (2) 特色あるスポーツ施策の推進

### 現状と課題

本市ではこれまで、富士山の雄大な自然と景観を活かした「富士登山競走」など、地域の特色を活かしたイベントを開催してきました。今後も市内外を問わず地域の魅力を知ってもらえるような取り組みを継続していく必要があります。

また、地元の企業や大学・プロスポーツチームなどの外部組織と連携することで、地域の人材やデータを効果的にスポーツ施策に導入していくことが求められています。

### 具体的取組

#### ① 地域の特色を活かしたスポーツイベントの開催

市主催の「富士登山競走」を継続して開催していきます。また、地域で開催されるスポーツイベントに対してスポーツボランティアなどの派遣を行い、積極的に運営を支援していきます。

また、高地トレーニングができる環境であることを活かし、アスリートの合宿活動の誘致を促進し、トップ選手の練習などを間近に見る機会を通じて、地元の競技者や指導者の育成に役立てていきます。



富士登山競走

#### ② 外部組織との連携強化

昭和大学の医科学・スポーツの専門家との連携を強化し、各種体力測定結果の分析及び分析結果に基づく健康づくりや体カづくりの推進、向上に努めます。

また、FCふじざくら山梨や山梨クィーンビーズ・ヴァンフォーレ甲府などの地元プロスポーツチームとの連携も強化していきます。

R4年度に包括連携協定を結んだ大塚製薬株式会社とは、スポーツイベントでの協力などを通して今後も連携を図っていきます。



地元プロスポーツチームとの連携

### ③ 富士吉田スポーツ協会を中心とした地域スポーツの連携強化

富士吉田スポーツ協会による各競技団体活動活性化についての長期ビジョンの策定と、加盟団体の横の連携を強化していきます。会員増加策で効果や成果が出ている団体の事例発表などを通じて、市内全体のスポーツ活性化を図っていきます。

### (3) 多様なスポーツ交流の推進

#### 現状と課題

近年では、東京オリ・パラ大会の開催などの影響もあり、スポーツを「する」だけでなく「みる」ことによる参画にも注目が集まっています。

テレビや SNS でトップアスリートの姿を観たり、時には地元プロスポーツ選手との交流を通じて実際にプロ選手の指導を受けるなど、多様なスポーツ交流の機会を増やすことで、スポーツへの参画を推進していく必要があります。

#### 具体的取組

##### ① トップアスリート・指導者による直伝の技術指導機会の提供

各種助成金等を活用し、トップアスリートや指導者を招いたスポーツ教室を開催していきます。

また、一般社団法人日本トップリーグ機構と連携したボールゲームフェスタを継続実施し、主に小学生が同機構に所属するトップアスリートから運動の楽しさや技術を学ぶ機会を提供します。

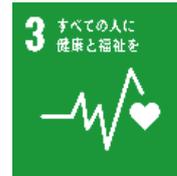
##### ② 地元プロスポーツチームとの交流機会確保

R4 年度に包括連携協定を結んだ FC ふじざくら山梨をはじめ、山梨クィーンビーズやヴァンフォーレ甲府と各種イベントや運動教室の講師協力依頼などを通じて交流の機会を確保していくことで、双方の持つ力を活かしたスポーツ振興を図っていきます。

##### ③ プロスポーツ観戦による「みる」スポーツの充実

FC ふじざくら山梨や山梨クィーンビーズ・ヴァンフォーレ甲府などの地元で活躍するプロスポーツチームの試合やイベントなどの情報を積極的に提供し、スポーツを身近に感じてもらえる機会の提供に努めます。

## 基本方針3 スポーツ施設の充実



### (1) スポーツ施設の適切な維持管理と将来を見据えた施設整備

#### 現状と課題

市所有のスポーツ施設については、老朽化の進行などにより一部は更新が必要な状況となっており、市民アンケートにおいても、市の施設のどの点に不満があるかとの質問に対し、「施設の整備がよくない」との意見が多数となっています。また、「市に今後どのような公共スポーツ施設の整備・充実が必要だと思うか」との質問に対しては、「さまざまなスポーツが楽しめる総合的なスポーツ施設」を望む声が多く、更新にあたっては住民ニーズを反映した時代に即した整備を行うことが必要になります。

鐘山総合体育館についても老朽化の影響により新体育館の検討が進められていますが、どの程度の規模・内容の施設にするかについては様々な要素を総合的に判断し、将来を見据えた施設整備とすることが求められています。

#### 具体的取組

#### ① スポーツ施設の一般開放による運動機会の提供

学校体育施設について、引き続き夜間や休日の一般開放を行い、市民がスポーツに親しむ場の提供をしていきます。

また、他の施設についても一般開放の可否について検討を進めます。

#### ② 利用しやすい施設環境整備

ウィズコロナ時代に向けて、ウォーキングやジムなどの1人でも出来るスポーツの実施環境を整備していきます。

また、子どもから高齢者まで各世代や時代のニーズにあった誰もが利用しやすい施設環境の充実を図ります。

#### ③ 安全にスポーツを楽しめる施設管理

老朽化による劣化などによる危険が生じることがないように、グラウンドや体育館などの建物や備品・設備等について、計画的な改修を進めます。

また、指定管理者による定期点検を実施し、安心安全にスポーツに取り組める環境づくりを進めます。

#### ④ 新体育館建設

鐘山総合体育館の老朽化に伴う新体育館の建設について、新たな時代のニーズ・市民の声・既存施設との役割分担などの要素を勘案し、整備方針の検討を進めます。



鐘山総合スポーツセンター

## ■ 施策の数値目標

計画の推進にあたり、その達成度を示す指標のひとつとして、数値目標を以下のとおり設定します。

目標値については、中間期における見直しを前提とし、5年後の指標を設定しています。

	指標	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和9年度)
基本方針Ⅰ	1年間で1回でも15分以上の運動やスポーツを行った人の割合	77.6%	87.6%
基本方針Ⅰ	山梨県新体力テスト・健康実態調査における児童の体力合計点の全国体力合計点との比較(小学5年生)※	男子：91.6% 女子：92.0% ※R3数値	男子：93.6% 女子：94.0%
基本方針Ⅰ	山梨県新体力テスト・健康実態調査における児童の体力合計点の全国体力合計点との比較(中学2年生)※	男子：98.4% 女子：94.5% ※R3数値	男子：100.0% 女子：96.5%
基本方針Ⅰ	市やスポーツ協会が主催するスポーツ教室等の参加者数	1,729人 ※R3数値	2,000人
基本方針Ⅰ	チャレンジデー参加率	45.7%	50.0%
基本方針Ⅱ	スポーツボランティア登録者数	73人	100人
基本方針Ⅲ	市民体育施設・学校体育施設の利用者数	244,000人 ※R3数値	365,000人

※全国と富士吉田市の体力合計点の比較をしており、例えばどちらも55点だった場合は100.0%となり、全国が55点、富士吉田市が48点だった場合は87.3%となります。全国平均よりも低い傾向である本市の体力合計点を、全国平均に近づけることを目標として設定しています。

## ■ 資料1 山梨県新体力テスト・健康実態調査結果

### 【男子：小学5年生】

	握力	上体 起こし	長座体 前屈	反復 横跳び	20m シャトル	50m 走	立ち 幅跳び	ボール 投げ	合計 体力点
富士吉田市	17.02	19.63	31.24	40.97	40.91	9.32	154.16	19.21	52.05
山梨県	16.06	18.48	33.19	39.62	43.76	9.48	149.52	19.93	48.18
全国	17.48	20.75	34.09	44.40	53.60	9.15	156.87	23.12	56.81

### 【女子：小学5年生】

	握力	上体 起こし	長座体 前屈	反復 横跳び	20m シャトル	50m 走	立ち 幅跳び	ボール 投げ	合計 体力点
富士吉田市	16.80	18.13	35.37	39.01	31.35	9.63	141.51	13.39	53.20
山梨県	16.11	17.90	37.65	38.57	34.52	9.67	145.06	13.73	51.26
全国	17.35	19.20	39.88	42.80	41.89	9.47	149.20	14.21	57.83

令和3年度山梨県新体力テスト・健康実態調査結果

### 【男子：中学2年生】

	握力	上体 起こし	長座体 前屈	反復 横跳び	20m シャトル	50m 走	立ち 幅跳び	ボール 投げ	合計 体力点
富士吉田市	30.41	27.23	50.35	55.00	82.75	8.02	207.87	19.30	43.79
山梨県	29.83	26.41	44.15	52.32	82.50	7.94	198.12	20.17	38.80
全国	30.58	27.57	44.99	54.13	81.40	7.90	203.32	21.34	44.49

### 【女子：中学2年生】

	握力	上体 起こし	長座体 前屈	反復 横跳び	20m シャトル	50m 走	立ち 幅跳び	ボール 投げ	合計 体力点
富士吉田市	23.06	21.70	54.97	47.64	51.08	8.94	171.78	11.41	48.22
山梨県	23.90	22.08	45.52	46.44	55.21	8.82	167.98	12.82	44.14
全国	24.17	22.63	47.61	48.57	58.67	8.79	173.87	13.37	51.05

令和3年度山梨県新体力テスト・健康実態調査結果

## ■ 資料2 富士吉田市スポーツ少年団の推移

年度	単位団数	指導者数	団員数
H25	37	143	525
H26	38	139	521
H27	35	145	480
H28	35	143	489
H29	32	138	468
H30	32	137	476
R元	30	139	475
R 2	28	89	394
R 3	27	73	394
R 4	24	68	375

R4.8 富士吉田スポーツ協会調べ

## ■ 資料3 富士吉田スポーツ協会加盟団体一覧

富士吉田弓道連盟	山梨県剣道連盟富士吉田支部	富士吉田テニス連盟
富士吉田市陸上競技協会	富士柔真会	富士吉田スケートクラブ
富士吉田市ソフトボール協会	富士吉田スポーツ協会クレール射撃部	山梨県銃剣道連盟富士吉田支部
富士吉田卓球連盟	富士吉田サッカー協会	富士吉田ヨット協会
富士吉田バスケットボール協会	富士吉田ソフトテニス連盟	富士吉田綱引連盟
富士吉田スキー連盟	富士吉田ラグビーフットボール協会	富士吉田ゴルフ連盟
御坂山岳会	富士吉田市ハンドボール協会	富士吉田市ゲートボール協会
富士吉田市空手道連盟	富士吉田市バドミントン協会	富士吉田アイスホッケー協会
富士吉田市バレーボール協会	岳麓野球連盟	富士吉田市グラウンドゴルフ協会
富士吉田武術太極拳協会	富士吉田市ターゲットバードゴルフ協会	山梨県小中体連富士吉田支部

R4.8 富士吉田スポーツ協会調べ

## ■ 資料4 富士吉田市内の体育施設一覧

### ○ 市民体育施設

名 称	位 置	施 設	照明
鐘山スポーツセンター	上吉田東九丁目4番 18号	総合グラウンド	7基
		総合体育館・小体育館	－
		テニスコート	2基
大明見グラウンド	大明見 二丁目1294 番	グラウンド	－
笹子コミュニティスポーツ公園	小明見三丁目15番13号	フットサルコート ゲートボールコート	3基
みずほ公園スポーツ広場	下吉田一丁目998番3号	フットサルコート ゲートボールコート	4基

### ○ 学校体育施設

名 称		位 置	施 設	グラウンド 照明
市 内 小 学 校	下吉田第一小学校	新町一丁目8番1号	グラウンド・体育館	無
	下吉田第二小学校	緑ヶ丘二丁目 8番2号	グラウンド・体育館（H22 建替え）	8基
	下吉田東小学校	下吉田 九丁目21番1号	グラウンド・体育館（H23 建替え）	4基
	明見小学校	小明見 一丁目4番6号	グラウンド・体育館（H24 建替え）	無
	吉田小学校	上吉田五丁目 1番1号	グラウンド・体育館（H25 建替え）	3基
	吉田西小学校	新西原三丁目 7番1号	グラウンド・体育館（H24 建替え）	無
	富士小学校	上暮地一丁目 22番1号	グラウンド・体育館（H23 建替え）	3基
市 内 中 学 校	下吉田中学校	新町 四丁目12番27号	グラウンド	無
			体育館	－
	明見中学校	小明見 一丁目4番14号	グラウンド	4基
			体育館（S58 建替え）・武道場	－
	吉田中学校	上吉田一丁目 3番6号	グラウンド	2基
			体育館・格技場	－
	富士見台中学校	上暮地一丁目 6番1号	グラウンド	無
			体育館	－

R4.8 富士吉田スポーツ協会調べ

■ 資料5 富士吉田市スポーツ推進審議会委員 令和4・5年度名簿

	役職	所属（役職）	氏名
1	委員長	【スポーツ協会代表】 富士吉田スポーツ協会会長	渡邊 悟
2	副委員長	【有識者】 昭和大学教授	堀川 浩之
3	委員	【総合型スポーツクラブ代表】 FLAGSクラブマネージャー	早川 通泰
4	委員	【競技スポーツ】 剣 道	秋山 政人
5	委員	【競技スポーツ】 サッカー	広瀬 小吉
6	委員	【競技スポーツ】 卓 球	土屋 恵宣
7	委員	【スポーツ推進委員】 スポーツ推進委員会会長	小宮山久枝
8	委員	【障がい者スポーツ】 特別支援学校（かえで）教諭	小松 麗子
9	委員	【スポーツ普及（子供スポーツ）】 岳麓野球連盟 みらいアクション代表理事	羽田 隼人
10	委員	【シニア団体】 富士吉田シニアクラブ連合会会長	奥脇 日吉
11	委員	【有識者】 スポーツプログラマー 元小学校教諭	桑原 利克
12	委員	【小中体連】 山梨県小中体連 富士吉田支部長	齋藤 泰史

## ■ 資料6 富士吉田市スポーツ推進計画策定委員会開催状況

日時	内容	場所
令和4年5月10日	委嘱式・任命式 第1回スポーツ推進審議会	市役所 大会議室
令和4年 7月19日～8月2日	富士吉田市スポーツに関する アンケート調査実施	市内 市民 1,000人対象 企業・事業所100社対象
令和4年9月29日	第2回スポーツ推進審議会	市役所 大会議室
令和4年12月22日	第3回スポーツ推進審議会	市役所 大会議室
令和5年 2月1日	第4回スポーツ推進審議会	市役所 大会議室
令和5年3月23日	第5回スポーツ推進審議会	市役所 大会議室

---

---

## 富士吉田市スポーツ推進計画

発行年月 令和5年3月

発行 富士吉田市教育委員会

編集 富士吉田市教育委員会 生涯学習課 スポーツ振興担当

〒403-8601 山梨県富士吉田市下吉田六丁目1番1号

TEL 0555-22-1111 FAX 0555-22-6551

---

---



**富士吉田市  
スポーツ推進計画**